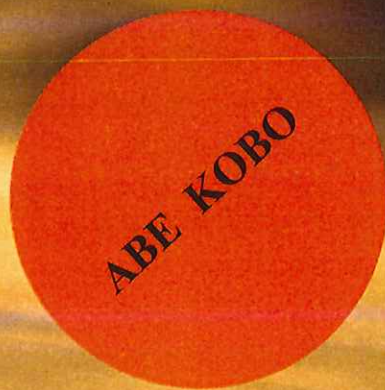
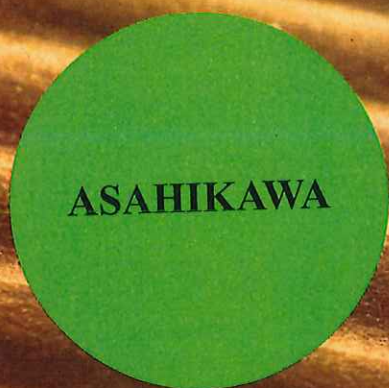


旭川文学資料館 ミニ企画展

安部公房 と旭川

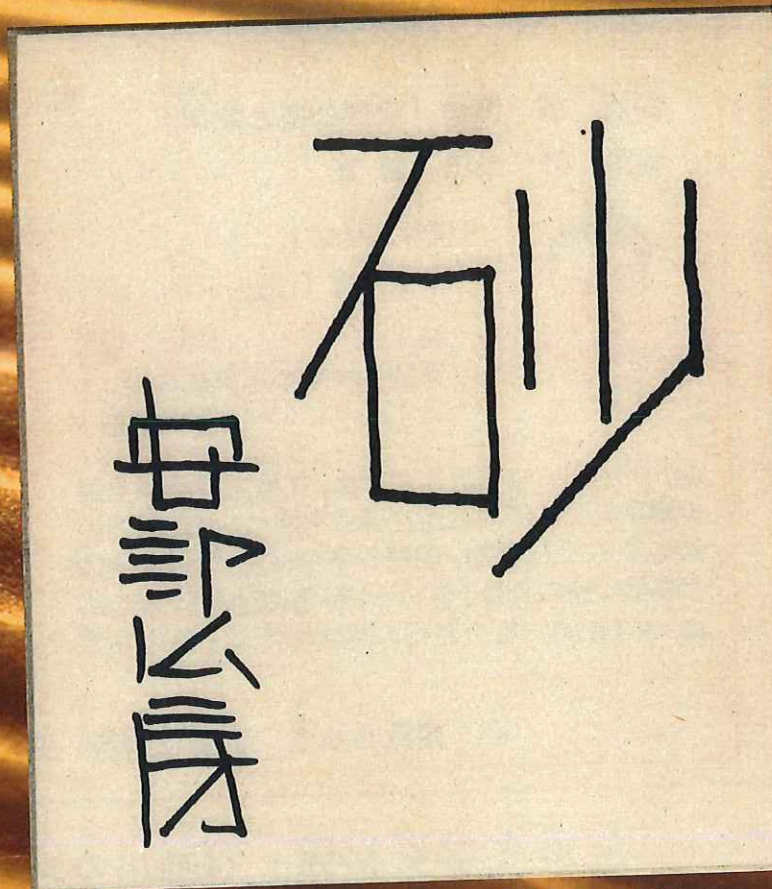


没後30年&生誕100年



2023 11.14 (火)

2024 2.29 (木)



安部公房直筆色紙 旭川文学資料友の会所蔵

会場 旭川文学資料館 ミニ展示室
開館時間 10:00~16:00
休館日 毎週 日・月曜日、祝日、年末年始
入館料 無料
主催 旭川文学資料館
協力 東鷹栖安部公房有志の会
旭川市東鷹栖公民館

安部公房(1924.3.7-1993.1.22)の本籍は旭川市東鷹栖(旧東鷹栖村)。父母共に旭川の学校を卒業。戦前戦後、公房は何度か東鷹栖に滞在しています。2023年は安部公房没後30年、2024年は生誕100年をおかえます。公房と旭川の関係を中心に展示紹介いたします。

関連イベント：講演朗読会 [2023年11月18日(土)13時30分～。定員50名、電話予約制]

お問い合わせ
お申し込み

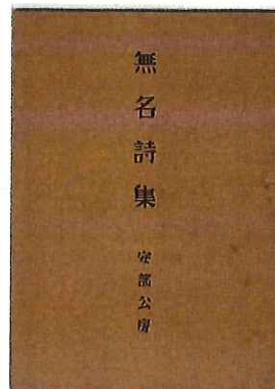
旭川文学資料館

070-0044 旭川市常磐公園1971-5 旭川市常磐館内 TEL/FAX 0166-22-3334

安部公房(1924.3.7-1993.1.22)は小説、戯曲、演出なども手がけた国際的評価の高い作家です。デビュー前は詩も書き、謄写版刷『無名詩集』を自費出版しました。公房は当時の満州国奉天市で小学校に通います。その期間中、医師である父浅吉がドイツに留学した約1年半、本籍地東鷹栖村(現旭川市東鷹栖)の母ヨリミの実家に滞在しており、その後も何度か帰省していました。

公房は多くの作品において日常と非日常、中心と周辺、夢と現実、人間と非人間の境界線を越境往来し、常識や境界線そのものをも破壊し、人間と世界の生存可能性を追求しました。世界的規模の不安や、孤立した個の不安定さを感じる現代。公房の作品世界に触れることにより、明日への道筋を見出すきっかけになれば幸いです。

「明日のない希望よりも むしろ絶望の明日を」(安部公房)



安部公房『無名詩集』
1947(昭和22)年 自家版
旭川文学資料友の会所蔵

関連イベント 【講演朗読会】 2023年11月18日(土)13:30~。旭川市常磐館2階講堂にて

◎講演 演題「安部公房と旭川」

◎講師 柴田 望氏



[講師プロフィール]

柴田 望 (しばたのぞむ)

詩人

東鷹栖安部公房有志の会
事務局長

旭川市在住。岩見沢市生まれ。評論家高野斗志美の薫陶を受け安部公房に関心を持つ。北海道内の詩のイベントに参加、朗読や楽器演奏、映像制作など多様な詩の表現を試みる。詩集に『顔』(北海道詩人協会賞受賞)他。旭川発行の詩誌「フラジャイル」主宰

◎朗読 安部公房作「睡眠誘導術」「笑う月」

◎朗読者 酒谷 茂靖氏



[朗読者プロフィール]

酒谷 茂靖 (さかたにしげやす)

朗読家

旭川市在住。富良野演劇工場、北海道大学講堂など北海道内各地で文学作品の朗読をし好評を博す。昨年旭川で開催された哲学者・宗教学者・詩人の鎌田東二氏講演会で鎌田氏の詩作品等の朗読をおこなった。

※ 定員50名 参加料無料 要電話予約(申込は0166-22-3334まで)

「旭川文学資料館」は旭川のシンボル 旭橋 のすぐ近くに 있습니다

交通(バス)のご案内 「常磐公園前」下車

●旭川電気軌道バス(所要時間8分)

駅前バスタッチ発 4番乗場:5・6・81番、1条8丁目乗場:14番

●道北バス(所要時間8分)

駅前バスタッチ発 3番乗場:28・29

宮下通駅前 22・23番乗場:10・14・15・114・530番

※旭川駅前から、徒歩で約25分です。

〒070-0044 北海道旭川市常磐公園1971-5

旭川市常磐館内 TEL/FAX(0166)22-3334

■開館時間/10:00~16:00

■休館日/毎週日・月曜日・祝日・年末年始

■入館料/無料

■駐車場/有

当館のホームページもご覧ください。

<https://www.abs-tomonokai.jp>



特定非営利活動法人 旭川文学資料友の会が運営しています。
2001年に活動を開始、2009(平21)年5月17日に開館しました。

